

ラオスの こども通信

50号
2010年12月発行

誌面一新
しました!

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 「こども図書館」新規オープン! ▶ p1
- はじめる・つながる・つくりだす [2010.7-11]
ラオス発 ▶ p2 日本発 ▶ p3
- みんなでボランティア ▶ p4
- 「勉強会」報告 ▶ p4
- メコンのほとり「食」 ▶ p4



「こども図書館」 新規オープン



盛況、毎週 800 人が来館

2010年9月、当会の「こども図書館」が新たにオープンしました。近隣には学校も多く、各校にお披露目をしたことで、平日は学校の昼休み時間、放課後に、そして土曜日は午前中から子どもたちがやってきて、週にのべ500～800人が利用し、約1,000冊が貸し出されています。中高生や、お坊さんも来館します。

ラオスでは昼休みは家に帰ってご飯を食べるのがふつうで、90分の休み時間があります。図書館ができたことで、立ち寄って、絵本を読んだり、絵を描いたり、子どもの居場所ともなっています。昼休み時間が終わりに近づく、「午後の授業に遅れないで」とスタッフは学校に戻るように促します。夕方には、お母さんやおばあちゃんといっしょにやってくる子もいます。

「今まで図書館はなかった。ここが初めて」と子どもたちは口をそろえます。

楽器演奏や日本の子どもたちと対話も

こども図書館では、日常的に絵本の読み聞かせや紙芝居を演じるほかに、民族楽器のケーンの演奏などのイベントも開催しています。

11月27日には、横浜の「あすぶらざ」(神奈川県地球市民かながわブラザ)とインターネットを使ったビデオ通話で、子ども同士の対話企画を催しました。ラオスの子どもたちは、遠い日本の子どもたちに向かって自己紹介をするのにドキドキ。また、ラオスの学校では駄菓子を買って、休み時間に買い食いできると聞いた日本の子どもたちはびっくりしていました。

当会はラオス全国を対象に学校図書室の整備、読書活動の推進を図り、子どもたちが本に親しめる環境づくりをめざしています。自ら運営することも図書館を活発にすることを通じてスタッフが獲得したノウハウなどを各地の学校の先生方に伝えていきたいと思っています。



こちらがラオスの新事務所

「ラオスのこども」のラオス事務所は、2010年8月に移転しました。今までは街の中心部から空港に向かう大通り沿いでしたが、サバンモーという住宅街へ。サイセター中学校の近くです(裏門側)。事務所併設の図書室の活性化を図ることを最大の目的に、住宅の多い地域に引っ越したのです。家賃は高くなりましたが、たくさんの子どもたちが来館し、スタッフの意欲も高まっています。



ラオス 発

絵本を取り入れ、 楽しく学べる授業にしよう。

当会は外務省の日本NGO連携無償資金協力を得て、2009年9月から小学校での副読本を活用する教授法の普及に取り組み、2010年9月に終了しました。

当会が作成した「図書活用マニュアル」を使って地域ごとにセミナーを開催。副読本として絵本や「私たちの世界」「楽しい動物の話」など6種類の本を30冊ずつ各校に備えました。



その後、各校を巡回し、図書室の運営や授業での活用法をアドバイスしました。さらに、とくに意欲の高い教員を対象に経験共有やネットワークづくりのために研修を実施しました。刺激し合える仲間がいることは先生方を勇気づけます。

これらの成果の一つは、先生方からは「絵本を授業に取り入れたら、ふだん授業についてこれない子どもが積極的に授業に参加するようになった」という感想が聞かれたことです。

今、ラオスの1年生の絶対学率（6歳で1年生に入学する率）は78%で、1年生の進級試験合格率は76%です。入学するだけでなく、ドロップアウトしないことが大きな目標です。その一助として絵本の導入が取り組まれています。

一方、教科書を教える以外に絵本もとなると対応が難しかったり、農業との兼業がもつづける先生方にとって余計な仕事が増えたと受けとめる先生もいます。読書の普及には、なお数々の課題が横たわっています。



狩り狩りと授業と読書。地域に根ざした 図書活動をめざす新たな一歩。

11月5日、当会と国立図書館読書推進活動（政府機関）の職員は、ラオス北部のボーケオの県都フアイサイから赤土の道を3時間行ったパーウド郡を訪問。目的は絵本などを授業に取り入れた模擬授業の導入でした。授業を視察しようとする訪問者をよそに、子どもたちは家に帰ってもちぎれモングラス、ミントなどを持ってきて、学校のまわりの藪で荷をとってきて、手際よく皮を剥きはじめたり、忙しそう。訪問者のための託ごはんの準備にとりかかっていたのです。荷スプの用意が一段落し、ようやく教室に入ると、先生は抱っこした赤ちゃんをあやしながら授業を始めました。

絵本で楽しく学びながら読書書き能力をつけるというねらいが、この取り組みにはあります。とはいえ、それが生活実感から違ひいものなら、学ぶ子どもたちにとって、どうなのだろう。と当会職員は頭をかきめず。開発が進んで、子どもたちが英語塾に通う首都ヴィエンチャンのようになる日が、この山岳部の村にやってくるのかもしれないという思いもよびます。

この取り組みはJICA草の根技術協力事業との連携で、地域の人々も図書活動に巻き込むことをめざすもので、会としての新たな一歩です。楽しみとしての読書とともに暮らしの問題解決につながる本が活用できてこそ、人々が求めるものとなるでしょう。当会では、個々の地域との対話や子どもも大人も楽しめる読み聞かせ会などを計画し、その可能性を探っています。



小学生と大学生の ボランティア協力で絵本寄贈

大阪・池田市ボランティアセンターの学生ボランティアのみなさんが9月にヴィエンチャンの小学校を訪問、絵本57冊を寄贈していただきました。

学生のみなさんはラオスについて学びながら、2009年に池田市内の小学校に向けて絵本集めの協力を呼びかけ、集まった絵本に当会のラオス語シートを貼るボランティアを小学校の体験授業に提案するなど、手探りと試行錯誤の中でラオス訪問実現だったとのこと。当会とも図書館へ

の来館では日本からの翻訳シートを貼った絵本が子どもたちに親しまれているのを実感したとの感想も。日本の小学生と大学生とラオスの子どもたちの笑顔がつかまりました。



日本 発

7月3日

沖電気工業(株) 絵本貼りイベント

「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」

2000年から始まり、11回目をむかえた沖電気工業の絵本貼りイベント「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」に、今年は社員やご家族など32人が参加し、67冊の絵本ができました。

絵本貼りとは、日本の絵本に当会が用意したラオス語の翻訳を貼り、貼った人の名前をラオスの文字で書き添えて、ラオスの小学校などに送るといったものです。

今回はOKIグループに入社したラオス出身の方が参加して、翻訳シートを貼り終えたラオス語絵本を朗読していただく場面も。顔を踏んで美しい言葉に、参加者一斉歓声が入りました。「毎年心待ちにしています」という声もいただき、11年間で累計606冊になりました。

さらに、OKIグループ役員・社員のみさんによる「OKI愛の100円募金」を通じ、2001年度から「衛生教育の紙芝居」「カムの民話」など8種類、36,300冊の絵本や紙芝居の出版を応援していただいています。

「社会貢献活動は、地道に続けることが大事」との柴田和佳子 CSR部長の言葉は、私たちにとても大変心に残るものでした。

(OKI http://www.oki.com/jp/phil/activity/2010/pt5_366.html)

10月22日

(株)リコー ランチイベント

コナツゼリーで「食」から「社会」を考える

リコー本社事業所(銀座)で行われる「社会貢献週間」に、当会は今年初めて参加しました。今回のテーマは「食」から「社会」を考える。当会では、ラオスで子どもから大人まで小腹が空いたときにちょっと一口食べるおやつ、コナツゼリーの「ヴァン」を提供しました。卵が入っていて、コナツゼリーの甘い香りが特徴です(本紙p4で紹介)。

「食」を通して、そして「音楽」「絵本」「織物」を通して、様々な角度からアジアの文化・社会、人々の暮らし、そして当会の活動を知っていただければと考えています。

(リコー <http://www.ricoh.co.jp/kouken/freewill/topics/2010.html>)



11月18・19日

富士ゼロックス(株) 古本市

子どもたちが絵本に出会う機会を

富士ゼロックス(株)本社で恒例の社内向け古本市が開かれました。今年も2日間、昼休みなどに社員のみさんが立ち寄って購入した439冊の売り上げをご寄付いただきました。またラオスの手工芸品やカレンダーなどを紹介、販売する当会のブースを出展し、お買い上げいただきました。

これらのお金は、当会がラオス各地の小学校などに図書を届ける費用などにあてています。国際協力をことさらに意識しなくても、何気なく手に取って買った本を通じて、子どもたちが絵本に出会う機会をつくりだしていく古本市です。



7月3日

町田市立真光寺中学校

国際交流の日
「本が読めるって楽しい?」

恒例の「国際交流の日」に今年はNGO、大学、地域の国際交流ラウンジ15団体が来校し、生徒のみさんと世界の国々について学びました。

当会も昨年に引き続き、事務局スタッフと学習院女子大学の学生6人が訪問し、「本が読めるって楽しい?」をテーマにラオスの子どもたちの生活にふれ、学ぶことの楽しさ、教育の大切さを学びました。ラオス文字による非識字体験ではとまどいの顔を見ながらも、ラオスをちょっぴり身近に感じた様子でした。

当会では学校などへの講師派遣を行っています。神奈川県立藤沢総合高等学校の「産業社会と人間」の授業では「NGO職員について」、千葉県立千葉高等学校では生徒によるラオスへの援助計画の発表に講師を派遣し、国際協力についての話をしました。

ラオスの子どもでは、ラオスや会の活動の紹介、ワークショップ(参加型学習、ボランティア体験など)、日本語の絵本にラオス語翻訳シートを貼る「ラオス語絵本プロジェクト」などの講師派遣や訪問受入を行っています。ご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

ワークショップ実施例



織物に興味のある方、ごいっしょに。

近藤知子さん(理事・活動委員)

スタッフとして勤務していたラオス事務所から、帰国しては6年。退職してから、ボランティアとして物販に携わっています。織物の魅力はなんと言っても自然の染織による美しい色合い、手織りならではのあたたかさ、そして様々な意味を持つ文様も取り入れられていること。でも、商品を見るたびに「この織りは？」とアンチョコ(チャントン)さん著「ラオスの布を愛する」にお世話になりました。ラオスでは毎日織物を目にしていたのに、もう少し勉強しておけばよかったと。



11月19,20日には漁袋の仙行寺さんに会場を提供していただき織物展を開催しました。そして来年1月13-18日には平塚市民プラザで、と販売イベントはこれからも続いている予定です。ラオスの織物に詳しい方、興味のある方、これから一緒に盛り上げていきませんか？

お手伝いいただける方は、事務局までご連絡下さい。お待ちしております！

「勉強会」報告

「ラオスの田舎の文化・子どもたちの感性」(8月7日・馬込区民センター)

講演者:あさぬますけ(パフォーマー)

1990年代にバントマイムを通してラオスの人々の感性と出会い、現在は椰子の木のオブジェによるパフォーマンス・グループ「チエオゴン」で活動するあさぬまさん。2010年6,7月、当会の子どもセンターのプログラム講師として、ラオス各地で子どもたちと「身の回り」「友だち」「夢、物語」といったテーマでワークショップを行いました。「うさぎさん」といって、お遊戯で遊びのポーズになつてしまうのが日本ですが、豊か自然とともに生きる子どもたちのみずみずしく楽しんでいる身体表現が映像とともに紹介されました。

「ラオス語、タイ語、メコンの左岸と右岸のことば」(10月9日・JICA地球ひろば)

講演者:矢野順子(東京外国語大学ラオス語講師)

ラオ語圏が、フランスとタイによってメコン川を国境とされて以来、右岸のタイ語と左岸のラオ語を話す、ラオスの国民語としてラオ(ラオス)語の確立が進められてきました。ラオス語の基本にはじまり、そのたどたどしい道について、「もし日本語が東西に分かれたらどうなる？」との話を交えながら、興味深く話していただきました。

当会では様々なテーマからラオスの今を知る勉強会を開いています。今後の開催は、当会ホームページをご覧ください。(http://deknolao.org)

表紙の写真

絵本を読む女の子。ラオスでは子どもも大人も本に触れる機会がほとんどありません。「ラオスのこども」は1982年から識字の普及、絵本の楽しさを広げる絵本一冊運動を開始し、学校図書室、地域の子どもセンター(児童館)を支援し、現地の図書館の出版を進めています。女の子が読んでいるのは日本の絵本にラオス語の翻訳を貼ったもので、日本のボランティア・イベントを通じて送られました。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、

子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 50号

2010年12月発行 編集人:森 透
発行:Action with Lao Children / Deknolao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: deknolao@yahoo.co.jp
http://deknolao.org
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494

2011年のスケジュール

今年同様、運営会議を奇数月、勉強会を偶数月の第2土曜日に開催します。そして2月より第1土曜日を事務所オープンの日とし、初めて会に開く方への団体活動紹介や、入力、発送作業等お手伝いをしていただく内容となります。

<運営会議>

1/22, 3/12, 5/14, 7/9, 11/12

<勉強会>

2/19, 6/11, 8/6, 10/8, 12/10

<事務所オープン日>

2/5, 3/5, 4/2, 5/7, 6/4, 7/2, 9/3, 12/3

日程は変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせしますのでご確認ください。みなさんのご参加お待ちしております！

メコンのほitori食

ラオスのこどもオリジナルレシピ その①

身近な材料で簡単に! ココナッツゼリー「ヴン」

ラオスでおなじみの菓子「ヴン」。地元では黒砂糖を使い、甘さたっぷり。ご紹介するレシピは、日本で手に入りやすい材料を使い、少し日本風に甘みをおさえた。お楽しみください。

【材料】40個分

ココナッツクリーム 1缶
水 1500cc
寒天(粉) 16g
砂糖 350g
塩 2.5g
卵 1個

【作り方】

- ①鍋にココナッツクリームと水を入れ、寒天をだまにならないように少しずつ加える。
- ②寒天が溶けたら火をつけ、焦げないようにかき混ぜながら沸騰させる。
- ③沸騰したら一度火を弱め、砂糖と塩を加えて味を確認する。
- ④味が整ったら再度沸騰したところに溶き玉子を取り混ぜて鍋に入れ、ひと混ぜしたら火を止める。
- ⑤アルミカップに分け、あら熱を取り(あら熱を取っている間に、油が浮いたらキッチンペーパーで吸い取る)。ラップをかけて冷蔵庫で冷やす。
- ⑥固まったらでき上がり。(常温でも十分固まります)

